



前橋出身兵士の「太平洋戦争」戦死者統計から見えてくるもの

元群馬大学講師・歴史学 岩根 承成

前橋市内の7地区の「9条の会」が、2016年に地元出身兵士の戦死者を調査し、統計化する作業を進めた。「前橋に“平和資料館”設立をめざす会」（事務局・「9条の会」前橋連絡会）が主催した、「戦後71年企画・地域から戦争を考える その3 一展示・体験談・討論・講演一」（2016年8月18～20日・前橋市芸術文化れんが蔵・旧大竹酒造蔵・三河町1町目）において、統計表・グラフを展示し、その歴史的な意味・意義を記念講演で解説した。

1941（昭和16）年12月8日、マレー半島コタバルへの陸軍の奇襲上陸、1時間4分後の真珠湾への海軍の奇襲攻撃、その後アメリカ・イギリスへ宣戦布告し、1945（昭和20）年8月15日の「終戦」に至る、3年9カ月に及んだ「太平洋戦争」（「アジア・太平洋戦争」）中の「年次別戦死者数」から見えてくるものを追ってみる。

I 8割以上の兵士が、最後の1年半に戦死している

1944年～45年8月の兵士戦死者数とその割合

地区	桂萱	南橋	芳賀	五中	中川	大胡	富士見
全戦死者	290名	320名	178名	110名	284名	237名	399名
44—45.8 最後1年半	247名	246名	149名	97名	243名	189名	319名
割合	85%	77%	84%	88%	86%	80%	80%

調査資料—『桂萱村誌』『芳賀村誌』『南橋村誌』『大胡町誌』『富士見村誌』『戦没者英霊録』

調査資料作成—桂萱・南橋・芳賀・五中・中川・大胡・富士見の各地区「9条の会」

◎7地区戦死者総数—1818名の内 最後の1年半→1490名=82%

全国的な年次別戦死者統計は、存在していない。岩手県の統計（岩手県編『援護の記録』）が残されている。これによると、岩手県の「太平洋戦争」中の戦死者 2万5855名の内、1944年1月から45年8月の戦死者は 2万2051名であり、最後の1年半の戦死者は約85%に達しており、前橋の7地区の約82%と符合する。

その意味で、今回の前橋7地区の調査・統計は、「太平洋戦争」を理解するうえで、十分解明されていない年次別戦死者数の統計を、補充する役割を果たしたことになる。

岩手県・前橋の二つのケースを全国に普遍することは出来ないものの、「太平洋戦争」における日本兵の戦死者175万名余の、80%前後、少なく見積もっても過半数の将兵が「終戦」までの最後の1年半に戦死した、との推定が出来るのではないだろうか。

II なぜ、最後の1年半の戦死者が、戦死者の80%前後に達するのか

1944（昭和19）年6～7月 マリアナ沖海戦とサイパンはじめマリアナ諸島の陥落により、日本軍の敗北は決定的となる。11月から、マリアナ基地の米軍B29による本土空襲が開始される。以後の1年半は、「絶望的抗戦期」となる。

その結果、制海・制空権の喪失による戦地への補給の途絶、補給を無視した無謀な作戦計画、補給困難のための食糧不足・医療・衛生面の不備が、多くの兵士を死に追いやった。戦死者の約60%が、戦闘ではなく餓死とされる所以である。

なぜ、天皇はじめ国家指導部は、1944（昭和19）年夏の段階で、敗北を認め、戦争終結へと動かなかったのか。戦死者の80%前後の生命は救えたはずなのに。

III 遅れた戦争終結（「終戦」）の決断

【第1段階】— 戦争終結を 昭和天皇へ勸告 → 拒否

○ 昭和19（1944）年7月 — マリアナ諸島（サイパンなど）陥落

→ 日本の敗北決定的となる・以後「絶望的抗戦期」に入る

○ 昭和20年2月14日— 元首相近衛文麿の上奏文= 早期戦争終結を天皇に勧告

→ 「敗戦（最悪なる事態）は遺憾ながら最早必死なりと存候」と。

革命による天皇制の崩壊という最悪の事態を回避するためにも、直ちに決断をと迫る。

→ 昭和天皇の回答

「もう一度戦果をあげてからでないと、なかなか話はむずかしいと思う」（木戸幸一関係文書）と言って拒否 — 天皇は「沖縄決戦」に期待をつないでいた。

○ 5月— 沖縄決戦の失敗と ドイツの敗北→ 天皇への「終戦」の決断を促す好機

【2つの方向性の ① ソ連を仲介者とする戦争終結工作=日ソ交渉の開始論
せめぎ合い】 ② 無謀な日本本土決戦論=徹底抗戦論

最終的に天皇が終戦の「聖断」を下すように持っていく「聖断シナリオ」の形成

【第2段階】— 「ポツダム宣言」を「黙殺」

○ 昭和20年7月26日— 米英中の「ポツダム宣言」（日本の無条件降伏を勧告）

→ 日本の回答— 7月27日 鈴木貫太郎首相は「ただ黙殺するのみ」と発表

→ 联合国側— 「黙殺」を「拒否」と理解

8月5日夜間— 「前橋空襲」

【第3段階】— 原爆とソ連対日参戦

○ 8月6日 アメリカは 広島に原爆投下

○ 8月8日 ソ連は 対日参戦

→ 日本側は ソ連の仲介による終戦交渉を考えていたが、崩れた。

○ 8月9日 最高戦争指導会議開く<ポツダム宣言受諾の条件をめぐる議論激烈>

・東郷外務大臣— 1条件のみ・「国体護持」（天皇制に手を加えないことを意味する）

・阿南陸軍大臣— 4条件= ①「国体（天皇制）護持」 ②日本軍の自主的撤兵

③戦争責任者の日本による処置 ④日本の保障占領（目的達成までの軍隊による占領）はしない。

→ この議論中に、長崎への原爆投下のニュースが届く

○ 8月10日 午前0時3分— 皇居内の御文庫付属室で御前会議となる。

・1条件派（東郷ら）と4条件派（阿南ら）が3対3となり、相譲らず。

・午前2時過ぎ 昭和天皇は1条件（国体護持）に賛成を表明— 「聖断」

○ 8月14日 午前11時2分 再び御前会議

—アメリカの回答に「国体（天皇制）護持」が明確に示されていないことで論議

—昭和天皇の「聖断」によりポツダム宣言受諾が最終的に決定した。（『昭和天皇実録』など）

→ 最優先は、「国体（天皇制）護持」であり、「国民の命と暮らし」

国民の犠牲は、最後まで 顧みられることは なかった。

→ 8月14日夜間— 高崎・玉村・伊勢崎・熊谷への B29による空襲

—これが 米軍による「最後の空襲」となる

Ⅳ 前橋出身兵士戦死者の年齢と軒数割

◎ 23歳での戦死が、一番多数 ◎ 戦死者の平均年齢は 26歳

◎ 4~5軒に1人の割合の戦死者

Ⅴ どこで戦死したのか —最後の戦場—

前橋7地区の戦死者の最後の戦場は、南西太平洋（ニューギニア・ビスマルク諸島など）と中部太平洋（マリアナ諸島・パラオ諸島など）が最も多く、ついで、フィリピン、中国本土が続く。ビルマ、日本本土での戦死も少なくなかった。

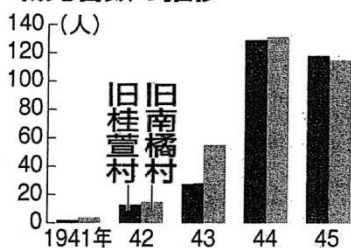
前橋出身兵の戦死 市民団体調査

終戦前1年半で8割

研究者「終結遅れが犠牲増に」

太平洋戦争中に戦死した前橋出身の兵士の8割以上が、終戦までの1年半ほどの間に死亡したことが、市民団体の調査で明らかになった。特に日本が制海・制空権を失った1944（昭和19）年以降に急増しているという。戦死者を年次別にまとめたデータは少なく、研究者は「戦争終結の遅れが犠牲者の増加につながったことが、改めて裏付けられた」と指摘する。

戦死者数の推移



前橋市の桂萱、南橋、五中（文京町など）、芳賀の計4地区の「九条の会」が、合併前の村誌や前橋市遺族の会発行の「戦没者英霊録」などを元に調査し

た。旧桂萱村では戦争が始まった41年から終戦の45年の間に290人が戦死し、このうち44年以降が247人と85%にのぼった。旧南橋村は、320人のうち44年以降が246人と77%を占めた。五中地区は110人中97人（88%）、芳賀地区も178人中149人（84%）だった。4地区全体では、3年8カ月にわたった戦争の終盤1年半余りの間に8割以上が集中していた

ことになる。

戦死者数を年次別にまとめた資料は少ないが、そのひとつに岩手県編「援護の記録」がある。それによると、太平洋戦争中の同県の戦死者2万5855人のうち44年以降は2万2051人（85%）だった。前橋の調査結果はこれとほぼ一致しており、全国的な傾向とみられるという。

日本近現代史に詳しく、今回の調査にも関わった元群馬大講師の岩根成さん（44年6月のマリアナ沖海戦が転機になったと指摘する。この海戦に敗れた日本は制海・制空権を完全に失い、その後はフィリピンのレイテ島、硫黄島、沖縄などで「絶望的抗戦」を強いられる。補給路を断たれ

1941年12月	日本軍、ハワイ・真珠湾を攻撃。太平洋戦争始まる
42年6月	ミッドウェー海戦で海軍敗北
43年2月	ガダルカナル島の日本軍が撤退
44年6月	マリアナ沖海戦で海軍が壊滅的敗北
7月	サイパン島守備隊全滅。約3万人戦死
10月	米軍、フィリピン・レイテ島に上陸
45年3月	硫黄島の守備隊全滅。約2万2千人戦死
	沖縄戦。6月までに守備隊10万人弱、民間人10万人余が死亡
8月	広島、長崎に原爆投下。終戦

たことによる餓死や病死も相次ぎ、戦死者の急増につながったとみている。前橋の調査でも、南西・中部太平洋で戦死した人が圧倒的に多く、次いでフィリピン、中国本土の順だった。県内出身者が多数いた歩兵第15連隊も、44年にパラオ諸島のペリリュー島で悲惨な最期を遂げている。さらに調査では、37年の日中戦争以降、桂萱、芳賀の両地区で当時の総戸数の5戸に1人の割合で戦死者が出ていたことがわかった。戦死した兵士の年齢は両地区とも23歳が最も多く、平均は26歳だった。岩根さんは「戦争が1年早く終わっていたら、多くの若い命が救われた。当時の戦争指導者たちの責任は大きい」と話している。

調査結果は、18、20日に前橋市三河町の市芸術文化

れんが蔵でパネル展示される。（土屋弘）